

巻 頭 言

作業療法学科長 遠藤 浩之

本日ここに常葉大学保健医療学部紀要第14巻を刊行いたします。投稿して頂いた教員の皆様、編集を担当する教員の皆様の協力により、ここに刊行することが出来ますことに感謝いたします。

私が保健医療学部の教員の皆様より詳しいのは、医療専門学校からの歴史と変遷でしかありません。常葉学園医療専門学校から浜松大学に改組される前に、専門学校に勤めて頂いていた教員をできるだけ大学に残して頂きたい旨を、閉校が決まる前から要望していました。その様子を見ていた当時の副校長の木宮俊峰先生は、「専門学校でも紀要を出して研究等の実績を示しなさい」と指導されました。紀要の意味や実績を積み上げる価値がよく分からず、日々学生指導や大学の学部開設の準備に追われていた私たちは、紀要を発行することなく専門学校を閉校し大学に移行しました。専門学校を支えて頂いた先生方にはとても感謝しております。

当初医療専門学校を常葉学園が開学させたのは、浜北に作ろうとしていた組織が頓挫して急遽受け入れたところから始まりました。県内初めての養成校ということで、理学療法学科も作業療法学科も大人気でした。特に理学療法学科の受験生の多さに、静岡にも受け入れ先を作ればとなり、静岡市にも専門学校を開校させました。作業療法学科も静岡市にという話で開設準備をしていましたが、作業療法学科の受験者数の減少が見えていたこともあり理学療法学科のみで開校しました。前後して、浜松に介護福祉科や看護科を立ち上げるような話も出ましたが消滅し、専門学校の敷地内に鍼灸学科・柔道整復学科が開設されました。常葉のリハビリテーション病院も新設時は、専門学校の杉谷校長が診療し私たち教員も赴いて臨床業務をこなしました。目まぐるしい時代でしたが無我夢中でした。専門学校の学生たちも、エネルギーと創造力に満ちていたように思います。

さて、巻頭言を書くにあたり、改めて過去の紀要を並べ、先生方の巻頭言や表紙の写真に触れる機会に恵まれました。世界中コロナ禍で3年、戦争も始まりグローバルな平和な世界は理想でしかないことが突き付けられました。

今年度の表紙はどんな写真が採用されるでしょうか。